

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1171100488		
法人名	グループホームやすらぎ有限会社		
事業所名	グループホームやすらぎ		
所在地	埼玉県 北葛飾郡 杉戸町 清地6-2-7		
自己評価作成日	平成28年2月15日	評価結果市町村受理日	平成28年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/11/index.php">http://www.kaijokensaku.jp/11/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社シーサポート
所在地	埼玉県さいたま市浦和区領家2-13-9
訪問調査日	平成28年3月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開放的で、家庭的な環境の下、散歩や体操(機能訓練)、レクリエーションを毎日の日課とし、不安感のない生活で精神的な安定に努め、明るく楽しい、伸びの伸びとした生活が出来るように援助しています。また、精神的な安定、問題行動の減少及び認知症の進行を緩和するように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

●日当たりのよいフロアーにはソファが置かれています。ここで利用者同士が並びテレビを見たり、寛いだりする姿は、昔ながらの縁側を思い起こすとともに、本ホームの穏やかな毎日をよく表しています。  
 ●サンドウィッチを食べに行きつけの店舗に行ったり、併設のデイサービスの方を訪ねたりと入居後の馴染みに対する支援がなされています。また入居者同士が互いの居室を訪れるなどの微笑ましい関係づくりも後援しています。  
 ●敬いの気持ちを持ちつつも年配者扱いばかりしないよう努めており、利用者の自尊心に配慮した声掛けに努めています。家庭的な中にも数々の細やかな配慮がなされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員皆が見れるリビングに当施設の理念を掲示し、職員一同が理念を心得ながら日々の介護に取り組んでいる。	理念が掲示されており、「利用者同士が助け合いながら・職員とは家族のように」過ごせるホームを作っている。利用者の自立と機能維持について職員が共通認識をもつよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	共有場所の掃除は職員と利用者で行っている。自治会にも加入してゴミ当番も協力している。散歩時は、近所の方々に積極的に挨拶をし、話す事で地域とのつながりを大切にしている。	管理者や職員が地域に溶け込んでいることから、利用者も散歩の際には挨拶をするなど交流がなされている。自治会や近隣の学校への協力も随時行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は実践してしないが、近所の方々に「認知症」「グループホーム」について相談された時はアドバイスをしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会は定期的開催され、利用者の状況、活動報告をし、感染症・認知症・他について話し合います。	行政がけん引する形で運営推進会議が開かれており、民生委員や区長・介護相談員の参加のもと事業や行事の報告がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役所主催の会議には、必ず参加しています。情報提供、相談など密に連絡をとりあいながら連携を図っている。	運営推進会議への招待・窓口への訪問等を通して関係を構築している。町主催による事業者の連絡会は、交流と情報交換の場となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、身体拘束の具体的な行為を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、やむを得ず身体拘束する場合は、車椅子のシートベルトを利用し、最小限の範囲、時間になるように努めている。	玄関は施錠をしておらず利用者の意思を尊重した行動を職員の見守りにより実践している。身体拘束については職員への周知に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は高齢者虐待防止の研修に参加し虐待の防止について学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について理解はしているが、活用できるような事例はない。そのような機会があれば活用したいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族等の不安や疑問点を把握し、十分な説明を行い、理解、納得してもらうようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などを利用して家族の話をよく聴くように努力している。	季節ごとに家族に御報せを配布しており、ホームの様子を伝えている。また面会時にもコミュニケーションを図るよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングなどを行い職員の意見や提案を聞くようにしている。	毎日の申し送り時に情報共有と意見交換がなされている。利用者の状況把握やケース検討に取り組んでいる。	職員会議の議事録の作成・整理に努める意向をもっており、その実践と支援への反映が望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、働きやすく、やりがいのある職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員間で自主研修を行っている。研修に参加した職員は、習得したものを他の職員に伝えるようにしている。共有したケアが出来るように朝の申し送り、連絡ノートを活用し、利用者様へのより良いケアに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	1年に2、3回役場が行う交流会、集団指導で意見交換をしている。他の事業所との交流もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や本人に案内してもらい、居宅やホーム内を案内し、他の利用者様と一緒に過ごし、納得してから入居してもらっている。また、入居後慣れるまでは、夜間の見守りを行い、レクには無理強いせず自然に参加できるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事、不安な事、要望等、傾聴しケアプランを作成し、不安が取り除けるようケアしている。何かあれば家族に連絡をし、信頼関係を築けるように努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が必要としているサービスをアセスメントで見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と共に行事食などを作り楽しむようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	密に連絡をとりあいながら共に本人を支えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の親戚、友人などと手紙や電話で連絡をとりなじみの関係が途切れないようにしています。	サンドウィッチを食べに行きつけの店舗に行ったり、併設のデイサービスの方を訪ねたりと入居後の馴染みに対する支援がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員でリビングに集まれるように配慮し、レクには参加したくない方も雑談などを楽しみ、お互い関わり、孤立することなく生活しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養等の施設に入所した方も家族より状況を聴き相談があれば支援していきたいと考えています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人が言いたいことを言えるような雰囲気作りに努め本人の希望は、出来るだけ実現できるようにしている。	集団生活としての決まりと利用者のやりたいことのバランスを考慮し、自由な行動を見守ることで穏やかな生活が営めるよう支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの情報により生活歴、生活環境、これまでの生活を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の変化の状況などを把握し、介護にかかしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の状態、生活歴、本人の希望、家族の意向を考慮して、家族・本人・職員とカンファレンスを行い、介護計画書を作成している。	サービス担当者会議・モニタリングの実施を経て計画が策定されている。ミーティング時に確認と周知を図り、症状の維持・回復に向け、支援に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を毎日行い職員は、状況の変化、気づきなどを職員で話し合い介護の統一性を共有できるように記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員同士の話し合い、カンファレンスを随時行い一人ひとりに柔軟な対応が行えるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩時などは、近所の方々と自然とあいさつを交わしたりお話ししたりと、地域で支えてもらえるよう努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に受診していただいている利用者もいますが受診は、本人及び家族等の希望を大切にしている。適切な医療を受けられるように支援している。	往診医・訪問看護事業者と協働し、利用者の健康維持に取り組んでいる。服薬についても薬局の協力を得ながら誤薬のないよう仕組みをつくっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、バイタルチェックを行い、体調の変化などを看護師と相談し、受診や適切な介護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して入院できるよう入院の際は、利用者の状況など報告し、退院の際は看護サマリーなどの情報をいただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応等を家族と話し合い、家族の合意を考慮し対応していく。	終末期の支援について指針の策定がなされており、その同意を得ている。変化する状態を見ながら家族・医師と情報を共有し、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救命救急研修に参加し、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員が全利用者を外に誘導することは、普段、散歩などで全員外に誘導する事があるので、問題はないと思うが、火事、天災が起きた時に冷静に避難させる事が出来るかどうかはわからない。避難訓練は年に2回行っている。	調理場からの出火を想定した避難訓練が実施されている。万一の事態に備え、スプリンクラー・緊急通報等の装置が備え付けられている。	近隣の地区も高齢化が進んでおり、万一の事態にはホームでできる支援を表明し、お互いが持ちつもたれつの協力関係を築けることが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	管理者は、利用者に対する言葉使いなどの職員教育に努め、不用意な言動がないよう、尊厳を守っている。	敬いの気持ちを持ちつつも年配者扱いばかりしないよう努めており、配慮した声掛けに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る範囲の希望は実践はしている。色々希望は出るが、叶えられないことも多い。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何でも話せる雰囲気作りを大切にしている。和やかに過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	爪切りや口腔ケア、入浴、着脱等の身だしなみや着付けが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の簡単な手伝い、配膳など利用者が楽しみながら一緒に行っている。	リビングに接する台所にて匂いと音を楽しんでもらいながら調理がなされている。時に利用者の好みや要望に応じて献立を決めており、行事等の際も利用者到手伝ってもらいながら食事の提供が進められている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調を考慮して、雑炊にしたり、水分を取らない方は、声掛けをして、お茶を勧めたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所で口腔ケアを行っている。自力で行えない方は、職員が介助にて、口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりの排泄パターンを把握し、その人にあった支援をしている。	パターンの把握と定時誘導によりなるべくトイレで排せつできるよう支援に努めている。排せつ後の清潔が保てるよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めにとる。運動、散歩、体操、腹部のマッサージ等で腸の動きを活発にするようにしている。必要時には下剤を服用するようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は職員配置の都合で日中に入浴している。	「支援すること」と「自分で行うこと」の認識を職員が持ち、利用者の能力と状態を鑑み、なるべく自立した支援となるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	メリハリのある生活を心がける事により、一名の利用者以外は安定剤なども服用せずに夜にはぐっすりとお眠りすることができる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明をファイルしており、職員はどのような薬を服用しているか把握している。チェックリストを利用して封役確認もできている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備、お茶の用意、洗濯物たたみ縫い物等手伝ってもらっている。利用者のリクエストによりお好み焼きパーティーやケーキ作り等、楽しむようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日は近所の庭の花を楽しんでいる。たまに外食、買い物に行く。また、家族とも自由に外出ができるような支援をしている。	午前中の時間を中心に近隣への散歩を楽しんでいる。「外出を好まない」・「車いすを使用している」利用者も職員が声掛けをし、なるべく外気に触れられるよう努めている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人個人の財布はあるが、お金の管理は施設でしている。その中からお金をだしている。また、家族と一緒に外出した際に買い物などをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人、家族が必要としているサービスをアセスメントで見極めている。家族により、電話、手紙のやり取りをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者がリビングに集まり、気の合う同志、お話ししたり、している。	日当たりのよいフロアーにソファが置かれている。利用者同士が並びテレビを見たり、寛いだりする姿は、昔ながらの縁側を思い起こす。本ホームの穏やかな毎日をよく表す場面でもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者がリビングに集まり、和やかに過ごしている。また、一人になる時間も設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の思い出のものもあり、持ち物の整理がしやすいように配慮している。	居室は単に休むばかりの場所とはなっておらず、利用者同士で行き来するなど自分の部屋として活用されている。職員の手を借り、居室の整理整頓がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	なるべく出来る範囲で安全に行動できるよう、環境を整えている。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	運営に関する職員の意見が反映されているか。	不定期で行われているミーティングでは職員の意見を聞くようにはしている。介護職員不足でパート職員などに多くシフトに入ってもらなどしているが、職員を補充し、無理のないシフトで職員が働ける環境を作りたい。	介護の現場はストレスの溜まる仕事なので、職員にはいい環境で働いてもらいたい。万年的な介護職員不足ではあるが協力的な職員が多く助かっている。しかし甘える事なく、さまざまな媒体での求人などを使い職員を確保したい。	12ヶ月
2	35	ホーム単体での避難訓練はしているが、当施設は特に住宅地の中にあるので、地域の住民を交えた避難訓練をする事が望ましい。また、災害に対する時に地域との協力が出来るか。	地域(向こう三軒両隣)の方を交えた避難訓練、災害に対する話し合いなどをしたい。	年二回予定されている避難訓練の時に声を掛け避難の様子などを見てもらいたい。消防署の方の話を一緒に聞いてもらいたい。その時に災害・火災に対する時、地域としてどんな事が出来るか話し合いたい。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月